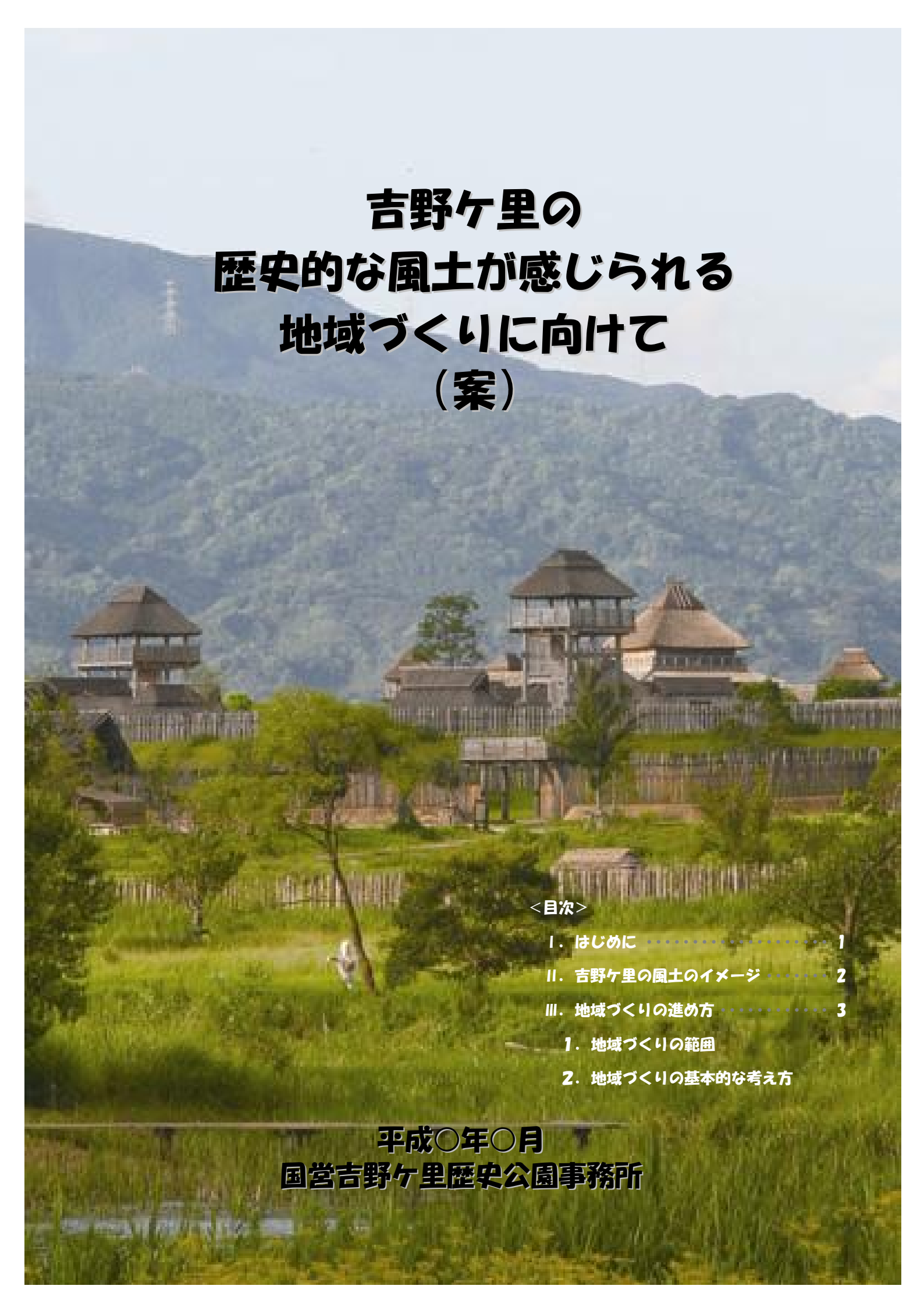




吉野ヶ里の 歴史的な風土が感じられる 地域づくりに向けて (案)

<目次>

- I. はじめに 1
- II. 吉野ヶ里の風土のイメージ 2
- III. 地域づくりの進め方 3
 - 1. 地域づくりの範囲
 - 2. 地域づくりの基本的な考え方

平成〇年〇月
国営吉野ヶ里歴史公園事務所

1. はじめに

～歴史的な風土^{ふうど}が感じられる地域づくりへの想い^{おも}～

「風土」とは、一般的に「その土地の状態、気候、地味^{ちみ}など」という意味で使用されています。しかし、地域の様々な歴史・文化資産、歴史や伝統を反映してきた人々の活動、長い歴史の中で形づくられてきた風景^{ふうけい}、そしてそれらが合わさった雰囲気であるとも言えるでしょう。



吉野ヶ里^{よしのが}には、「邪馬台国^{やまたいこく}」を思い起こさせる吉野ヶ里遺跡をはじめ、古代から現代にいたる多くの歴史的な資産が残っています。また、脊振山地^{せふり}を背景にした広々とした農地、点在する集落やこれらを取り巻く緑の丘陵地等が見られるとともに、農耕に係わりの深いお祭りや伝統行事等も数多く残っています。このように豊かな自然と、歴史と伝統を反映した人々が生活により、吉野ヶ里の歴史的な風土がつくられています。

今後さらに地域が発展し、みんなが豊かに暮らしていくために、このような祖先が残してくれた貴重な風土を、互いに協力しながら守り育み、地域づくりに活かすことはとても大切なことと考えます。



そこで、この冊子では、歴史的な風土が感じられる地域づくりに向けて、みんなの共通の目標となるものを検討してみました。この冊子が具体的な取り組みのきっかけとなることを期待しています。

II. 吉野ヶ里の風土のイメージ

吉野ヶ里の風土のイメージを、地域にお住まいの方々や吉野ヶ里歴史公園に来られたの方々等のご意見を踏まえながら、以下のように整理してみました。

○「クニ」のはじまりを感じさせる地

弥生時代を中心とした数多くの古代遺跡が残されています。その中でも吉野ヶ里遺跡（吉野ヶ里歴史公園）は、集落跡や墳丘墓等が発掘されており、ムラからクニの中心集落へと発展する過程をうかがえるとともに、「邪馬台国」を思い起こさせます。



■「邪馬台国」を思い起こさせる吉野ヶ里遺跡（「佐賀県の文化財紹介HP」より）

○日本人の^{げんふうけい}原風景の地

現在でも、豊かな自然（脊振山地、城原川^{じょうばるがわ}や田手川^{たでがわ}、南方の有明海等^{ありあけかい}）や田園（農地、里山、竹林、農家、集落等）が広がる風景が保たれており、日本人の原風景を感じさせます。



■脊振山地を背景とした
広々とした農地

○古代からの交流の地

弥生時代の出土品からうかがえる大陸や日本各地との交流、太宰府^{ださいふ}と肥前国^{ひぜんこく}を結ぶ奈良時代の古代官道^{こだいかんどう}や長崎^{ながさき}と小倉^{こくら}を結ぶ江戸時代の長崎街道等による東西交流など、古代からの経済的・文化的な交流の歴史を感じさせます。



■東西の交流を支えてきた交通網
（写真は長崎街道(目達原(めたばる)宿) 「吉野ヶ里町観光パンフレット」より）

○人と自然との^{きょうせい}共生の地

農耕社会を背景としたお祭りや伝統行事、「クリーグ」^{ほりわり}と呼ばれる堀割や自然環境に合わせてつくられてきた「クド造り」の民家など、人と自然との共生の歴史を感じさせます。



■農耕社会を背景に伝えられてきたお祭り（写真はに比山（にいやま）神社の御田舞（おんだまい） 「佐賀県の文化財紹介HP」より）

Ⅲ. 地域づくりの進め方

1. 地域づくりの範囲

○おおよそ神崎市、吉野ヶ里町、上峰町、みやき町の範囲を地域づくりの範囲とします

神崎市、吉野ヶ里町、上峰町、みやき町は、吉野ヶ里遺跡をはじめふないし船石遺跡、ひめかた姫方遺跡などの同時期の遺跡が数多く残り、古代からも関係が深い地域です。そこで、おおよそこれら4市町の範囲を地域づくりの範囲と考えます。

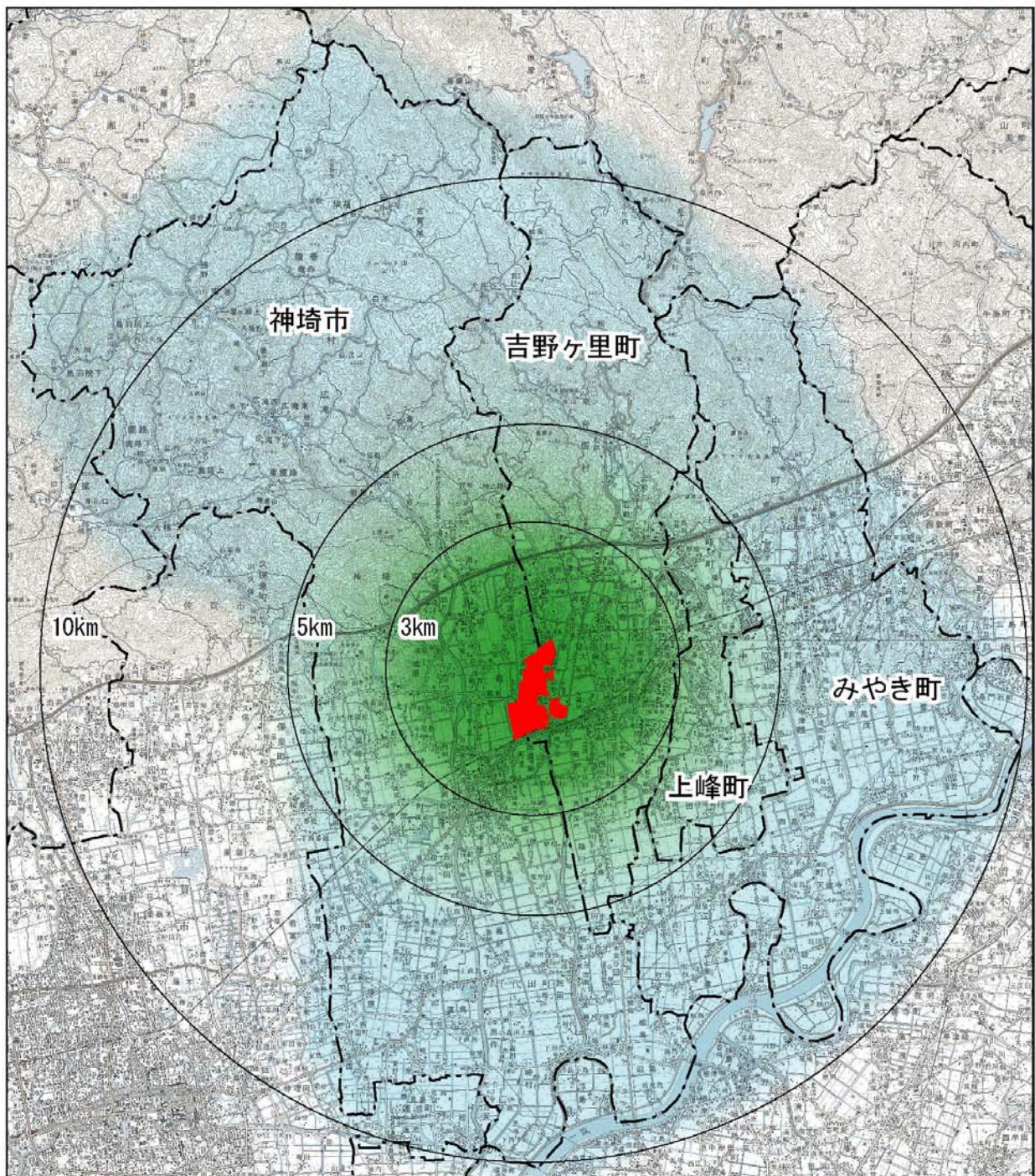
○中でも吉野ヶ里歴史公園周辺を、地域づくりにおいて特に大切な範囲とします

吉野ヶ里遺跡（吉野ヶ里歴史公園）は全国的に良く知られた遺跡であり、弥生時代の建物が復元整備された公園は地域の目印となっています。そこで、吉野ヶ里歴史公園を中心に地域づくりを行うことが効果的と考えました。

脊振山地の山並みや丘陵地などがつくる地形的なまとまり、公園から見渡せる範囲等を参考に、吉野ヶ里歴史公園を中心とした、おおよそ半径3 km程度の範囲を特に大切な範囲とし、重点的な地域づくりを行うこととします。



■吉野ヶ里の眺望



凡例  : 地域づくりの範囲
(おおよそ神崎市、吉野ヶ里町、上峰町、みやき町の範囲)

 : 地域づくりにおいて特に大切な範囲
注：範囲の境界を明確に定めるものではありません。

 : 吉野ヶ里歴史公園



0 1 2 3km

■地域づくりの範囲

2. 地域づくりの基本的な考え方

**地域の生活との調和を図りながら、
みんなで一緒に進める、
吉野ヶ里の歴史的な風土が感じられる
地域づくり**

○方針1：吉野ヶ里の歴史的な風土を守り・育む

人々の目に映る地形・地物（例えば山地・河川・農地・建物など）などの景観や地域の様々な歴史・伝統を反映してきた人々の生活など、吉野ヶ里の歴史的な風土を守り・育む。

○方針2：吉野ヶ里の歴史的な風土を活かす

吉野ヶ里の歴史的な風土を醸し出している、歴史・文化資産、お祭り・伝統行事、地場産品など、これまで培われてきた様々な地域資源を産業や観光などに活かす。

○方針3：地域が一体となって吉野ヶ里の風土が感じられる地域づくりを推進する

地域住民、民間事業者、行政などが互いに連携し、一体となって歴史的な風土が感じられる地域づくりを推進する。

方針1：吉野ヶ里の歴史的な風土を守り・育む

(1) 吉野ヶ里^{ちょうぼ}歴史公園への眺望景観

吉野ヶ里歴史公園への眺望景観を守る

弥生時代の建物が復元整備された吉野ヶ里歴史公園は地域の目印になっていることから、駅や主要な道路等から公園への眺望が保たれるように配慮することが必要です。また、建物等は周辺との調和に十分に配慮し、公園から周囲への良好な眺望を守ることが必要です。特に、良く晴れた日には南方に雲仙普賢岳^{うんぜんふげんだけ}を望むことができますが、そのような遠方の景観についても配慮することが大切です。

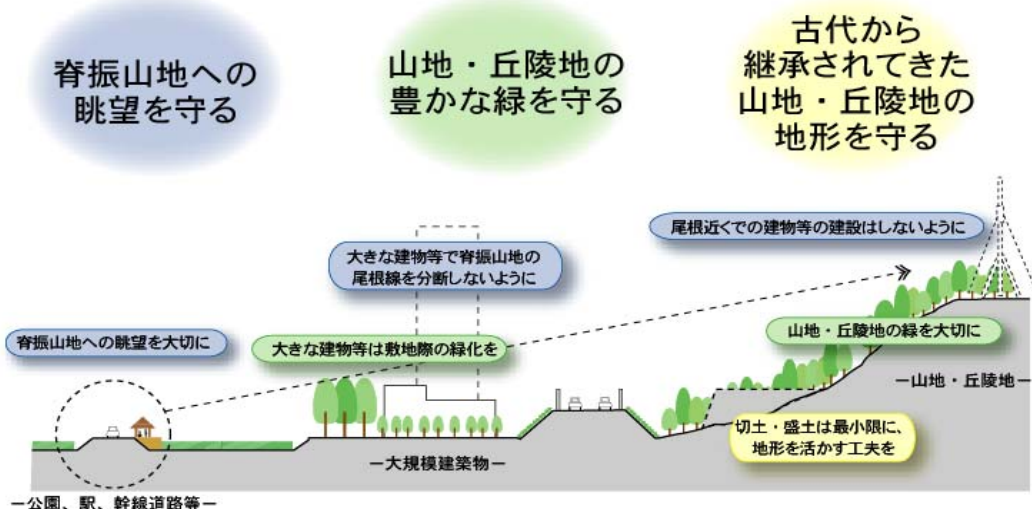


■吉野ヶ里歴史公園への眺望景観づくり

(2) 山地・丘陵地の景観

脊振山地の山並みや丘陵地の豊かな緑を守る

駅や主要な道路等から見て、大きな建物等により脊振山地の尾根線を分断することのないよう配慮が必要です。また、林業の振興等とも合わせ、山地・丘陵地の豊かな緑を守ることが必要です。



■山地・丘陵地の景観づくり

(3) 田園・集落の景観

日本人の原風景を感じさせる田園・集落景観を守る

農業の振興等とも合わせ、農地や点在する屋敷林等の保全に努めるとともに、建物、沿道の照明や電柱等は周囲の景観と調和するよう十分に配慮し、豊かな田園・集落の景観を守ることが必要です。



■田園・集落の景観づくり

(4) 市街地の景観

田園・集落景観と調和し 歴史を感じさせる市街地景観を創る

街路樹の整備や住宅地への緑化の取り組み、建物や照明、電柱、屋外広告物等の景観への配慮などとともに、歴史・文化資産の保全の取り組みにより、田園・集落景観と調和し、地域の歴史を感じさせる景観を創ることが必要です。

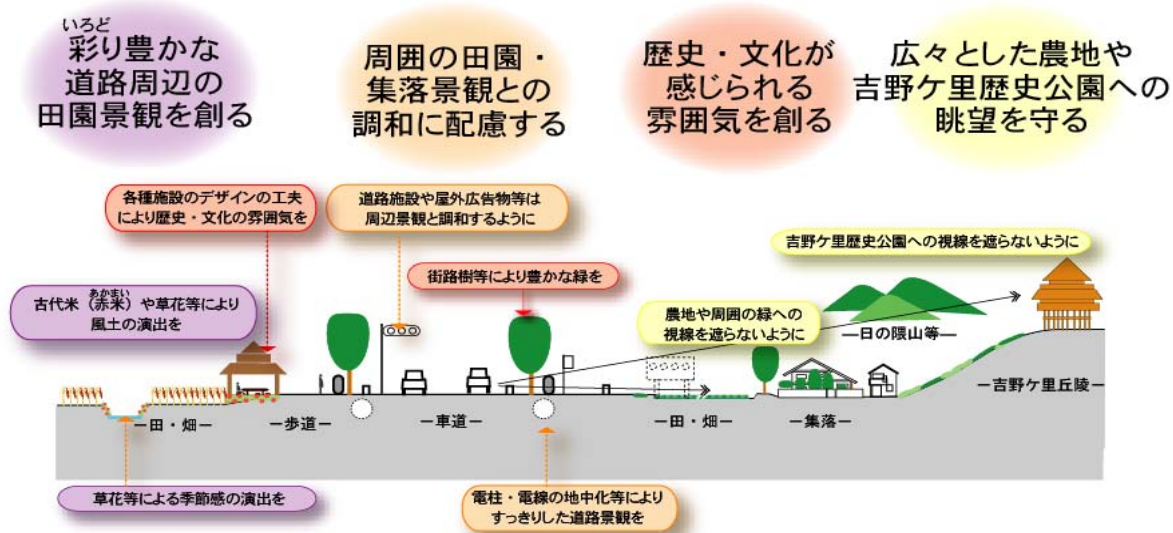


■市街地の景観づくり

(5) 吉野ヶ里歴史公園へとつながる道路の景観

吉野ヶ里のイメージがふくらむ「みち」を創る

吉野ヶ里歴史公園へとつながる国道 385 号線や、神埼駅や吉野ヶ里駅から公園入り口への道路では、吉野ヶ里歴史公園や周囲の農地への視線を^{さえぎら}ないように配慮するとともに、道路施設等のデザイン的な工夫などにより、吉野ヶ里のイメージがふくらむ「みち」を創る必要があります。



■吉野ヶ里歴史公園へとつながる道路の景観づくり



■古代米（赤米）による風土の演出

方針2：吉野ヶ里の歴史的な風土を活かす

(1) 地場産品

地場の産品を使った地域イメージづくり (吉野ヶ里ブランドづくり)

地域にしかない食べ物を味わうことは、旅行の楽しみであるように、地域の産品を使った地域イメージづくりは地域をわかりやすく印象づける有効な手段です。

地域づくりには、古くからある地域の特産品や新しい地場産品を活かしていくことが大切と考えます。



■神埼そうめん
(写真：神埼市観光パンフレットより)



■ジャンボニンニク
(吉野ガーリック)
(写真：吉野ヶ里町資料より)

(2) 歴史・文化資産等

歴史・文化資産等の連携による観光の新たな魅力づくり (歴史・文化資産等を巡るルートづくり)

歴史・文化資産等はそれだけでも高い魅力を有していますが、これらを年代や人物などの一定の「テーマ」に沿ってルートづくりを行い、連携を図ることで、より一層の魅力ある観光資源となります。また、来訪者に地域をより広く・深く理解していただく機会になると考えます。



■高柳大塚古墳（たかやなぎおおつかこふん）（みきや町観光パンフレットより）



■船石遺跡（ふないし いせき）（上峰町史跡パンフレットより）

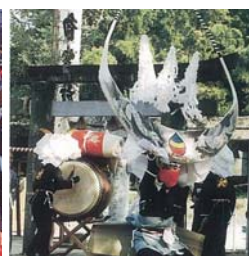
(3) お祭り・伝統行事

お祭りや伝統行事を活かした人々の交流づくり

古くから伝わるお祭りや伝統行事は、地域の風土を表す貴重な財産ですが、一部では失われつつあるところもあります。風土を守るためには、このようなお祭りや伝統行事を継承していく必要があります。そのためには観光資源や人々の交流の場として活用していくことが大切だと考えます。



■太神楽（だいかぐら）（神埼市）
(神埼市観光パンフレットより)

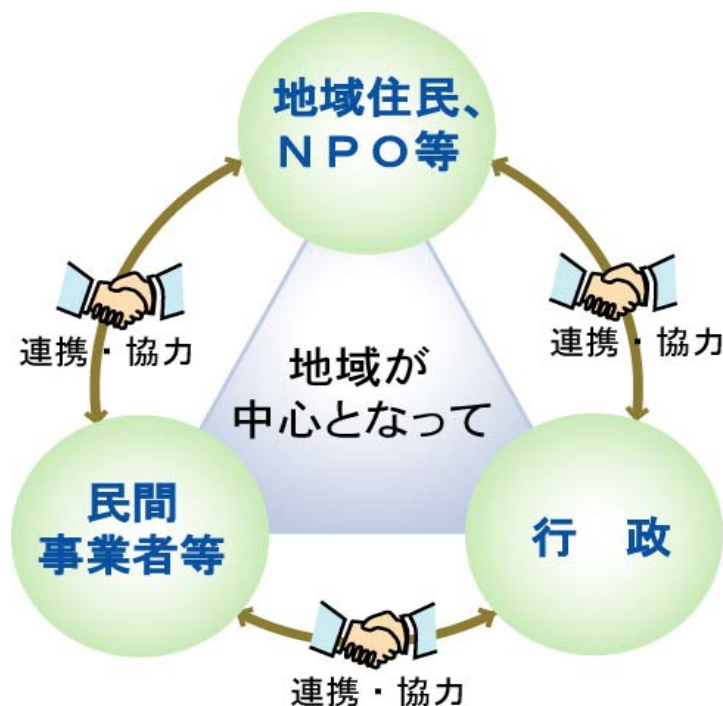


■米多浮立（めたふりゅう）（上峰町）
(上峰町米多浮立パンフレットより)

方針3：地域が一体となって吉野ヶ里の風土が感じられる地域づくりを推進する

地域づくりは、地域の人達みんなが進めていくものと考えます。

そのためにも、「共通の目標を持つ」、「情報を共有する」、「みんなで議論する」、「世代を渡って継続する」ことが重要です。



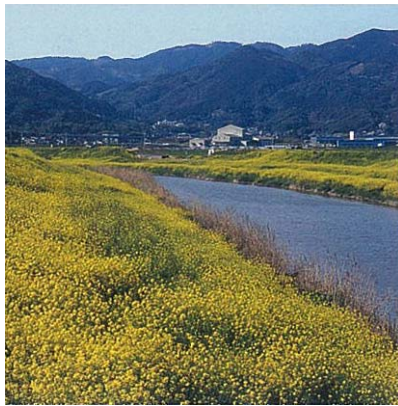
■地域づくりの連携・協力のイメージ

地域が一体となって進める取り組み(例)

- ・ 地域づくりに関わる勉強会や研究会、イベント等の開催・参加
- ・ 地域の清掃や緑化活動への参加
- ・ 自宅や事業所等の景観的な配慮
- ・ 関連業者が連携した地場製品のPR
- ・ 歴史・文化資源等をつないだ周遊モデルコースの設定
- ・ お祭りや伝統行事の観光資源としてのPR
- ・ 地域づくりの中心となる組織の設立
- ・ 学校と連携した地域づくり教育
- ・ 観光ガイド、地場産業や伝統行事等の継承者の育成

など





■問い合わせ先

国土交通省 九州地方整備局 国営吉野ヶ里歴史公園事務所 調査・品質確保課
〒842-0035 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町田手 1869
TEL (0952)53-3902 (代) FAX (0952)53-3910

*この冊子は、吉野ヶ里歴史的景観形成検討委員会の成果を基に作成しました。委員の方々は以下の通りです。

蓑茂寿太郎（熊本県立大学理事長）、高島忠平（佐賀女子短期大学理事長・学長）、重松敏則（九州大学大学院芸術工学研究院環境計画部門教授）、三島伸雄（佐賀大学理工学部都市工学科准教授）、田中正文（（社）佐賀県観光連盟誘致推進課長）、寺崎宗俊（佐賀新聞取締役編集主幹）、佐賀県、神崎市、吉野ヶ里町

*裏表紙の写真は、神崎市観光パンフレットより掲載いたしました。